第８回（平成 26 年度）栃木県元気な農業コンクールいきいき農村部門受賞者紹介

☆　農村活性化の部

(1)　審査経過

今年度の栃木県元気な農業コンクール（農村活性化の部）には各地から６事例の応募があり、いずれも地域の特徴を活かした取組で、地域活性化への熱意や意欲が伝わってくるものでした。

審査委員会では、①自主的努力と創意工夫、②合意形成、③推進体制の整備と運営、④地域農業振興や活性化への寄与の４つの視点から各事例の審査を行いました。この視点にもとづき、５人の審査委員が書類審査による評価・判定を行い、さらに優良地区の現地調査を行い、各賞を決定いたしました。

(2)　受賞組織の概要

●　とちぎ元気大賞（栃木県知事賞・関東農政局長賞）

大柿地区グリーンツーリズム推進協議会（栃木市）

地区内において、むらおこしや環境保全等に取り組む団体を一本化し、協議会を設立しました。NPO や大学等とも連携をとりつつ、地域住民自らの工夫と行動を基に幅広い活動を行っています。

ホタルやカタクリ、そばなどの地域資源を活用したイベントや、じゃがいも掘り体験等を通じて、都市住民との交流を進めるとともに、地域の中で課題となっていた周辺山林の鳥獣害対策や耕作放棄地対策、環境保全活動にも主体的に取り組み、成果をあげています。

自分たちが住んでいる地域の魅力、何を改善すべきかを共通認識とし、地域が一丸となって活動しています。また、将来方向性についても、しっかりとしたビジョンを持って活動している点を高く評価しました。

じゃがいも収穫体験

ヒガンバナの植え替え

●　とちぎ元気賞（栃木県知事賞）

船越北町会（佐野市）

地域住民が行政機関や地元企業と連携し、２０年もの間手つかずとなっていた６０ａもの耕作放棄地を、農地としての再生を実現させました。再生農地を中心としてショウガ、れんげ、菜の花を栽培し、農地や景観を保全するとともに、イベントや農産物販売の資源として活用しています。

農家だけでなく、新興住宅地の住民も含めて環境整備に取り組んでいるほか、地元食品企業と連携することにより、地域コミュニティが活発に機能しています。

船越北町会の取り組みは、近隣地域への波及効果も生み出しており、耕作放棄地の自主的な解消や作付けの拡大など、地域の農業振興や活性化に大きく貢献している点を評価しました。

レンゲ祭り

生姜の作付け

● **特別賞（栃木県農業協同組合中央会長賞）**

那須塩原西口産直会（那須塩原市）

設立から２０年以上が経過する地域に根付いた直売所で、地元農産物販売のほか、会員の約半数が漬物や惣菜、菓子類などの加工品に取り組み、販売にも力をいれています。また、生産者には農薬使用履歴を指導するなど、安全・安心への意識の徹底が図られています。

青果物販売店の空白地帯となった市街地への出張販売も行っており、地域になくてはならない直売所として、地元消費者からの信頼を得ています。

長年にわたり直売所を運営し、地元の農業振興に貢献している点や、早くから６次産業化への取り組みを開始した点、加工品製造における女性農業者の活躍などが高く評価されました。

賑わう直売所

感謝祭の様子

● **特別賞（下野新聞社長賞）**

古民家久我の庄　実行委員会（鹿沼市）

地域内で空き家となっていた築１００年を越える古民家と周辺農地を、田舎暮らしに関心のある都市住民に「体験の家」として短中期的に利用してもらう取り組みを行っています。

地域のイベントや、入居者が主催するイベントも開催されるなど、地元住民と入居者の交流が図られるようになり、地元にとっては当たり前であった地域の良さの再発見にもつながっています。

企画づくりから実行まで、地元住民が中心となった地域主導で進められ、各地で進展する人口減少問題に向き合った先進的な取り組みとして、高く評価されました。

交流イベント

耕作放棄地の解消